

# JLSR ニュースレター

## 人びとの語りに心奪われて

齋藤 公子

2011年3月11日、東北地方の太平洋沖でマグニチュード9の大地震が発生したとき、私は求職中だった。その2カ月前に、18年勤めた会社を辞めたところだった。バブル崩壊直後に入社し、日本社会が経済的な苦境に喘ぐなか、売上を上向きにすることに心を砕いてばかりの年月だった。その一方で、退職の何年前もから「いつか機会ができれば学び直そう」と思い続けていた。調べてみると、多くの大学には科目ごとに履修できる制度があった。私は母校の立教大学から、毎年のように出願書類を取り寄せるようになった。だが「学び直し」に踏み出すのは容易でなく、未提出の願書がたまっていった。そんなときに東日本大震災が起こり、私は「いつか」を迎える前に人生が終わる可能性に思い至った。

科目履修生として社会学研究科のゼミに参加するようになった私は、当初週に1コマだけ履修した。一人息子が小学4年だったこともあり、それが精一杯だった。だがその後、先生方のご指導に従い、先輩方から学ぶうちに、進学を考えるようになった。履修するコマ数が増え、学部の授業にも参加し、学内外の研究会に顔を出した。そして気づけば、知人にインタビューへの協力を依頼するようになっていた。

私には胃がんの経験があり、2005年に胃と脾臓の全摘手術を受けた。術後の経過はほぼ順調だったが、後遺症には苦しんだ。また、手術時に判明した病状が術前の想定より深刻だったこともあって、再発不安に悩まされた。主治医に訴えても、当時のがん医療では、患者のそうした経験に対応する方法は確立されていなかった。切羽詰まった私はあらゆる情報源を頼り、ついにはとある運動療法の習得を目指す患者会に参加することになった。そしてそこで、がんと向き合う多くの人と知り合った。インタビューを依頼したのは、そのような経緯で出会ったがん患者たちであり、私は彼ら彼女らの協力のもと、修士論文を書き上げた。

2016年3月に前期課程を修了した私は、研究を続けたいと考えていた。だが、実家で暮らす母の認知症が徐々に悪くなっていた。その介護を担う父にも、認知症の症状が見え出した。進学を迷った私は研究科に残り、研修生として2年を過ごした。

やっと後期課程に入学できたのが2018年である。その頃には母の在宅介護が難しくなり、父の病状も進んでいた。息子は大学受験を控え、自宅と実家でケアラー役割を果たすことが私の生活の大きな部分を占めるようになった。両親が介護施設に入所し、息子が進学で家を出たのは2021年春のことだ。急ぎ博士論文を準備し、審査の過程で先生方から厳しくも温かいご指導を受け、博士号の申請にいたったのが2022年度だった。東日本大震災に背中を押され、週に1コマの履修から「学び直し」を始めて以来、なんと12年が経過していた。

あつという間の 12 年だった。必ずしも研究にのみ注力できる環境にあったわけではなかった。「もはやこれまで」と思ったことも一度や二度でない。それでも私が研究を続けてきたのはなぜか。その答えを、ひとことで示すのは簡単でない。だがひとつには、桜井厚先生のお考えをお借りするなら、調査協力者たちの語りに耳を傾け、その「生(ライフ)」についての物語を聞き取ることは「私にとって自分の生活世界を広げるまたとない機会だ」(桜井 2002:7)からでないかと思う。

とりわけ私は、自身の想定や思い込みがインタビュー中に突き崩される経験を印象深いものと感じてきた。私が後期課程で協力を仰いだのは肺がんと向き合う人びとだったのだが、その語りに耳を傾ける私には胃がんの経験があった。だが同じがん患者とはいえ、協力者たちと私は、がん種もがんに罹患した時期も、罹患以前の「生」のありようも異なる。それがわかっているはずなのに、聞き手としての私のなかにあったがんに罹患することについての考えは、なかなか堅固なものだったといまになって思う。しかしながらインタビュー中、協力者たちの語りが、私の想定や思い込みを瞬時に突き崩すことがあった。そうした経験は、誤解を恐れずにいうなら、ある種の快感を私にもたらすことさえあった。

それは「自分の生活世界を広げるまたとない機会」だったし、がんに罹患することが人びとの「生」にいかに関与するかについての私の認識を更新し、人びとの「生」のありようの多様性に私の目を改めて開いてくれるものだった。私はその経験に自己を揺さぶられ、それがもたらす衝撃をときに快感として受け止めてきたのだと思う。協力者たちは深刻な病状と向き合う人びとで、このような発言は不謹慎なものと思える可能性もあろう。決してそのような意図はないことをいい添えつつ、私はこうして人びとの語りに心奪われ、研究を続けてきたことをここに記しておこうと思う。

(さいとう・きみこ 立教大学)

桜井厚, 2002, 『インタビューの社会学——ライフストーリーの聞き方』せりか書房。

## 会員エッセイ

### 桜井厚さんとの出会い

船橋純一郎

すでにご存じの方も多いと思いますが、桜井厚さんとの出会いを語るには欠かせない出来事がありました。1983 年 11 月に刊行した中沢新一『チベットのモーツァルト』に収録されている論文「孤独な鳥の条件—カスタネダ論」で紹介されている「エスノメソドロジー」です。これが僕にとって初めてのエスノメソドロジーとの出会いでした。この本を読んだ山田富秋さんと好井裕明さんの二人が中沢さんに会いたい旨連絡した結果、四人で新宿の喫茶店で会うことになったのです。これが始まりでした、

それから3年後の 1987 年に山田富秋・好井裕明・山崎敬一訳、ハロルド・ガーフィンケル他『エスノメソドロジー—社会学的思考の解体』が刊行されました。ぼ

くは文学、とりわけ詩や小説を読んできたのですが、この本のおかげで初めて新しい社会学に目覚めました。それまでアーヴィング・ゴッフマン『スティグマの社会学』しか知らなかったのです。

そしてこの頃に好井さんから桜井さんを紹介されて付き合いが始まったのではないかと思います。初対面の印象は、飄々としていて、いわゆる大学の先生とはとても思えない雰囲気を漂わせていました。年齢も 1946 年生まれのおぼくより 1 歳下で、同世代です。

2000 年3月に好井裕明・桜井厚編『フィールドワークの経験』が刊行されますが、初めて桜井さんが「語りたことと聞きたいことの間で」という論文を書いてくれました。この頃、千葉大学でLH(ライフヒストリー)研究会を開くようになり、ぼくも時々参加するようになりました。そしてある時『インタビューの社会学』の草稿を見せてくれて本にしたいと言いました。

桜井さんの文章は、いままで小難しい翻訳書を刊行することが多かったぼくには、不思議と抵抗感がなく素直にアタマに入ってきました。またインタビューという新しいジャンルでしたからとても興味深く読むことができました。とりわけ「はしがき」に出てくる「対話的構築

主義」にとっても心惹かれました。というのは、以前にせりか書房で刊行したロシアの思想家ミハイル・バフチンのキー概念に「笑い」と「対話」があり、ぼくの心底に深く刻み込まれていたからです。そこで「対話」と「構築主義」が見事に繋がったのです。以上が桜井さんとの長いお付き合いの始まりです。(せりか書房)

## 2023 年度総会報告 (第 9 回)

2023 年 6 月 4 日に、2023 年度総会が行われ、以下の議案が異議なく承認されました。

### 第 9 回総会議事録(要約)

【日時】2023 年 6 月 4 日(日) 13:00～15:00

【場所】(社) 日本ライフストーリー研究所

【参加人数】リアル 11 名、オンライン 11 名、

1. 開会の挨拶(桜井)
2. 議長に桜井厚を選出
3. 議題

#### (第 1 号議案) 2022 年度事業・活動報告

- ・会員の入退会を承認: 会員数(2023 年 3 月 31 日) 159 名
- ・文献資料の整理、収集
- ・研究会・講習会・シンポジウム: LS 研定例研究会 5 回、夏期研究会、『語りの地平』7 号合評会、講習会 3 回、シンポジウム「日本語教育×ライフストーリー＝？」開催。
- ・発行・発行: ニュースレター no.28～31、『語りの地平』7 号。
- ・施設利用(宿泊 2 名、研究相談 6 回)  
以上、報告され、承認された。

#### (第 2 号議案) 2022 年度決算報告

##### (1) 収入の部

項目	2022 年度決算	2022 年度予算	比較増減
会費	665,000 円	670,000 円	△5,000 円
寄付金・カンパ	15,420 円	9,995 円	5,425 円
利子	0 円	0 円	0 円
研究誌販売	88,200 円	110,000 円	△21,800 円
講習会	212,361 円	220,000 円	△7,639 円
研究相談	30,000 円	40,000 円	△10,000 円
合計	1,010,981 円	1,050,000 円	△39,019 円

##### (2) 支出の部

項目	2022 年度決算	2022 年度予算	比較増減
総会費	6,863 円	5,000 円	△1,863 円
文献資料購入費	11,660 円	5,000 円	△6,660 円
研究誌作成費	374,700 円	400,000 円	25,300 円
研究会開催費	9,989 円	15,000 円	5,011 円
交流会開催費	0 円	5,000 円	5,000 円
事務用品費	40,581 円	50,000 円	9,419 円
web通信管理費	54,890 円	43,010 円	△11,880 円
通信費	76,550 円	90,000 円	13,450 円
研究所消耗品費	34,146 円	27,000 円	△7,146 円
研究所管理費	83,050 円	100,000 円	16,950 円
研究所維持費	173,690 円	160,000 円	△13,690 円
会議費	156,670 円	120,000 円	△36,670 円
年会費	3,000 円	5,100 円	2,100 円
税金	31,000 円	21,000 円	△10,000 円
予備費	0 円	3,890 円	3,890 円
合計	1,056,789 円	1,050,000 円	△6,789 円

##### 《収支について》

収入合計 1,010,981 円－支出合計 1,056,789 円＝△45,808 円

\* 赤字分は代表理事からの寄付金にて補填

2022 年度の決算と会計監査報告(監査委員: 田中政明、早藤夕子)が行われ、承認された。

#### (第 3 号議案) 2023 年度事業・活動計画

- ・会員の拡大
- ・文献・資料の整理、収集: ライフヒストリー、ライフストーリー関係の文献の整理とともに各地の関連調査資料を収集。
- ・ホームページと Facebook の充実と活用。
- ・今後の研究会の予定: 定例会、夏期研究集会、『語りの地平』合評会に加えて、新たに特別研究会を開催。
- ・研究会・講習会の開催: 夏期研究集会(第 9 回大会)は 8 月 29 日(日)に開催予定。講習会は 3 回(入門編: 7 月、インタビュー編: 11 月、分析・解釈編: 3 月)開催予定。
- ・発行・発行: ニュースレター 32 号～35 号の発行、『語りの地平——ライフストーリー研究』第 8 号の刊行。
- ・研究相談の実施

・森岡清美資料室の開設:森岡蔵書の保管について、関係者の依頼によって、研究所の庭に書庫を建築して主に書籍以外の資料をアーカイブ。

以上の計画が承認された。

(第4号議案)2023年度予算

(1)収入の部

項目	2023年度予算	2022年度予算	比較増減
会費	680,000円	670,000円	10,000円
寄付金・カンパ	10,000円	9,995円	5円
利子	0円	5円	△5円
研究誌販売	100,000円	110,000円	△10,000円
講習会	200,000円	220,000円	△20,000円
研究相談	30,000円	40,000円	△10,000円
合計	1,020,000円	1,050,000円	△30,000円

(2)支出の部

項目	2023年度予算	2022年度予算	比較増減
総会費	5,000円	5,000円	0円
文献資料購入費	5,000円	5,000円	0円
研究誌作成費	400,000円	400,000円	0円
研究会開催費	10,000円	15,000円	△5,000円
特別研究会費	5,000円	5,000円	0円
事務用品費	35,000円	50,000円	△15,000円
Web通信管理費	43,010円	43,010円	0円
通信費	80,000円	90,000円	△10,000円
研究所消耗品費	27,000円	27,000円	0円
研究所管理費	80,000円	100,000円	△20,000円
研究所維持費	160,000円	160,000円	0円
会議費	140,000円	120,000円	20,000円
年会費	5,100円	5,100円	0円
税金	21,000円	21,000円	0円
予備費	3,890円	3,890円	0円
合計	1,020,000円	1,050,000円	△30,000円

以上、2023年度予算案が提案され、承認された。

## 第17回 ライフストーリー 調査研究講習会(入門編) 参加者募集!!

☆開催日時:

2023年7月23日(日)

10:30~16:40

☆概要:

1. ライフヒストリーからライフストーリーへ  
(10:30~12:10)
2. インタビューによるライフストーリーの構成と対話的特質(13:00~14:40)
3. トランスクリプトの作成と解釈の手がかり(15:00~16:40)

☆定員(先着順):

オンライン参加 20名程度

研究所リアル参加 5名程度

☆申込:

[http://lifestory.or.jp/school\\_entry/](http://lifestory.or.jp/school_entry/) から  
申し込んでください(締切7月15日)。

☆受講料:

会員:3,500円 非会員:5,000円

・参加者には申込確認と受講料支払いのメールを致しますので、その後、参加費の振り込みをお願いします。

☆お問い合わせ

jlrs\_info@lifestory.or.jp へお願いします。

# ライフストーリー研究会 開催報告

## LS 研5月例会

- ・日時:2022年5月28日(日)13:30~16:30
- ・報告者:小峯優花さん(横浜創英大学大学院生)
- ・報告タイトル:腎不全により透析治療を受けながら生活をする人のライフストーリー

・概要:腎不全を患いながらも生活と治療を両立し続けることのできる「生きる原動力」や「生きる支え」とは何か、総合病院で透析治療を受ける方々(3名)のライフストーリーから読み取り、腎不全看護のあり方について示唆を得る。

★報告者は随時、募集中です。メールにてお問い合わせください。『語りの地平』に投稿希望の方は、ぜひとも、報告をお願いいたします。

## LS 研 特別研究会

# みんなでじっくり語り合おう VOL.1 ライフストーリーを聴く私のポジショナリティ 開催のお知らせ

日時:2023年7月30日(日) 13:30~16:30

場所:ハイブリッド(日本ライフストーリー研究所/オンライン)

参加申込:日本ライフストーリー研究所ホームページからお申込みください。

<http://lifestory.or.jp/meeting form2/>

### 〈開催趣旨〉

ライフストーリー・インタビューは、何よりも個々人の声に耳を傾け、多元的で多声的な語りを採集することから始まり、その際、インタビュアーは、語り手の自発性を尊重し、語り手の意に則したストーリーを構築することになる。そのため、インタビュアーは、相手のストーリーをただ聞いているだけでなく、自らの構えに自覚的になりながら、または、自分のポジショナリティ(立場性:語り手と話し手の相互関係において、何らかしら影響を与えてしまう現象)を無意識ながらも規定し、どの立場にいるべきなのか葛藤しながら、語りに向き合っているのではないだろうか。

そんな、「聴く私って何だろう」をコンセプトに、難しいことも難しくないことも自由に語り合える場として、一緒に語り合ってみませんか。ライフストーリー研究が初めましての人も長らくかかわっている人も、ポジショナリティが何かわからない人も、みんなで今思っていることを言葉にして、自分のうずうずした気持ちを表現してみましょう!何か小さいながらも発見があるかも!? 皆様のご参加を楽しみにお待ちしております!!

### 〈プログラム〉

1. 趣旨説明
2. 報告とブレイクアウト・セッション(報告者3名)
3. 全体討議
4. 総括

\* 特別研究会 WG:佐藤正則(リーダー)、伊藤文子、大谷明子、早藤夕子、山本壮則、山本哲司、吉田静



## 報告者・参加者募集！！ ライフストーリー研究会 第9回 夏期研究集会

夏期研究集会を2023年8月27日(日)に日本ライフストーリー研究所(Zoom 同時開催)で開催します。開催にあたり3名の報告者を募集中です。一人の報告者の持ち時間は100分、報告時間50分、質疑応答50分となっています。研究所までメールでお申し込みください(7月末日締切)。3名になった時点で締め切ります。プログラムは以下のような時間設定です。

### 午前の部(10:30~12:10)

・第1報告

### 午後の部(13:00~16:30)

・第2報告

・第3報告

懇親会(16:30~)

\* 確定プログラム・参加者の申し込み方法は、8月上旬に、メールでお知らせします。

### 新入会員(2023年4月以降、順不同)

稲垣朱美(宮城大学大学院生)  
東川由薫  
長澤敦士(京都大学大学院生)  
李知垣(京都大学大学院生)  
盧叢珊(早稲田大学大学院生)  
池田倫子(仏教大学大学院研究員)  
山田恵子(新潟県立看護大学)  
周馨驥(神戸大学大学院生)  
池田佳代(関西学院大学大学院研究員)  
竹村博恵  
今井昭彦(歴史家・放送大学講師)  
服部恵(日本福祉大学大学院研究生)  
篠原真史(仏教大学大学院生)  
永井翔(人間環境大学大学院生)  
岡本ゆかこ(東京大学大学院生)

## 研究相談について

八ヶ岳の研究所に来所することが困難という方のご要望に応じて、ZOOMでの相談を受け付けています。相談時間は3時間程度、費用は5,000円になります。(詳細はお問い合わせください)

ご希望の方は、[jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp)までご連絡ください。

### 事務局から

## すずろごと

○5月、ヒグマが釣り人を襲ったというニュースが世間を騒がせた。それは母が生まれ育った町の話で、私も学生の頃に、開拓経験の聞き書きのためによく訪ねていた。この町に限らず、人や家畜を襲ったヒグマの話は、聞き取り調査のなかでしばしば耳にする。「べたべたと歩く」フィールドワークに憧れて、さして学術的に深い問いも持たずに、ムラからムラへとやみくもに歩いていた学生時分。熊撃ちの話聞いた帰り道、「熊出没注意！！」の看板を見てビビっていたあの頃から、早や20年。ヒグマの捕殺数は過去最多という。自分が中年になるまでの僅かの間にも人と自然の境界線が大きく動いてきたことに、はっとさせられる(TT)。

### 住所変更手続きのお願い

お引越し等で住所が変わられた際には、ライフストーリー研究所事務局まで、住所変更のご連絡をお願いいたします。

### 年会費の納入についてのお願い

研究所は皆さまの会費で運営をしております。年会費を未納の方は、お振込みをよろしく願いいたします。2年間未納の場合は、紀要は発送されません。また、自動的に退会となりますので、ご注意ください。

### 入退会のご案内

入退会のお申し込みは、以下までご連絡ください。  
E-mail: [jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp)

(社) 日本ライフストーリー研究所

〒408-0032 山梨県北杜市長坂町大井ヶ森 1176-489

E-mail: [jlsr\\_info@lifestory.or.jp](mailto:jlsr_info@lifestory.or.jp) HP: <http://lifestory.or.jp>